

取扱説明書

この度は、DAIKENの屋外アプローチ手摺をご採用いただき、ありがとうございました。
この取扱説明書は、いつでも利用できるよう大切に保管してください。

■定期的な点検項目

※製品の長期間の使用に伴い、部品等が劣化（経年劣化）を生じ安全上支障が出るおそれがあります。
経年劣化による重大事故を防止し、製品を長く安全にご使用いただくために、お客様自身による以下の点検を実施いただきますよう、お願いします。

点検部位	点検項目	兆候有無	経年劣化に伴う、具体的な事象
手摺パイプ	・ガタツキがある。 ・変形、ヒビ割れがある。	有・無	・手摺パイプの破損、転倒
支 柱	・ガタツキがある。 ・グリップ部のボルトのゆるみ、抜けがある。	有・無	・手摺パイプの外れ、転倒

ユーザー登録サービス

このたびはDAIKEN製品をお求めいただき誠にありがとうございます。
製品を末永く安全にご愛用していただくために、ユーザー登録をお願いいたします。
ご登録いただいたお客様情報は、製品安全に関する大切なお知らせや暮らしに役立つ情報をDAIKENからご連絡する際に、利用させていただきます。

ユーザー登録は無料です！！

登録はこちらから
<http://www.daiken.jp/user/>

ユーザー登録いただいた方には、次の特典が受けられます
特典① パーツショップ製品10%割引
ご登録いただくと、DAIKENのパーツショップ取扱製品を通常価格の10%割引でご購入いただけます。

商品の保証について

商品保証とは、保証期間、保証内容の範囲において故障が発生した場合に、無料で修理をお約束するものです。詳しくは、下記内容をご参照ください。

■対象商品

屋外アプローチ手摺

■保証期間

製品施工完了後、2年とさせていただきます。弊社製品の施工完了後に生じた、弊社の責任に起因する製品の不具合を、無料で修理する期間としています。保証期間経過後の修理については、有料となります。

■製品の不具合原因が次のような場合には、保証期間内であっても保証対象外になります。

- ①建物の設計・施工に起因する不具合
- ②施工説明書に記載された方法以外の施工内容に起因する不具合
- ③自然現象・周辺環境等（※1）の不可抗力に起因する結露、腐食、反り、割れ又はその他の不具合
- ④室内であっても部屋内外の温湿度差が著しく違う部位に取り付けられたことによる隙間・反り・キシミ音などの不具合。
- ⑤極端に乾湿を繰り返したり、著しく高温・多湿となる部位に取り付けられたことに起因する不具合

- ⑥建物自体の変形、入居後における増改築や改修等に起因する不具合
 - ⑦入居者又は第三者の不適切な使用又は維持管理等に起因する不具合
 - ⑧取扱説明書記載事項から逸脱した使用に伴う、消耗、磨耗、破損、変形などによる不具合
 - ⑨経時変化による通常一般的な当該保証対象品の変褪色、汚れ、さび、かび、劣化磨耗などの不具合
 - ⑩用途外に使用された場合の故障および損害（例えば、一般家庭用を業務用に、屋内用を屋外に使用された場合等）
 - ⑪犬・猫・鳥・鼠などの小動物の害に起因する不具合やキクイムシなどの虫害に起因する不具合
 - ⑫仕上げ面のキズなどの不具合で引渡し時に申し入れがなかった場合
 - ⑬保証期間経過後の申し出、または不具合発生後速やかに申し出がなかった場合
 - ⑭製造時に実用化されていた技術では予測することが不可能な事象に起因する場合
 - ⑮離島などの遠隔地へ出張を要する修理をおこなう場合、出張に要する実費
 - ⑯その他当該不具合の発生が弊社の責によらない場合
- ※1：火災・地震・水害・落雷などの天災地変や、公害・塩害・ガス害や異常な高温・低温・多湿・過乾燥などの周辺環境

ご相談窓口について ●製品に関するお取り扱い、補修、工事などのご相談は、工務店へ。●DAIKENへ直接ご相談される場合は、下記窓口へお願いします。

製品に関するお問い合わせご相談

DAIKENお客様センター

☎ 0120-787-505
(フリーダイヤル)

●受付時間…平日9:00～17:00
(土・日・祝日・年末年始・お盆はお休みをいただいています)

修理・交換部品のご購入の方は

DAIKENパーツショップ

部品のネット販売サイトです。

<http://www.daiken.jp/service/>

DAIKENホームページ ▶ お客様サポート ▶

▶▶▶▶ DAIKENパーツショップ



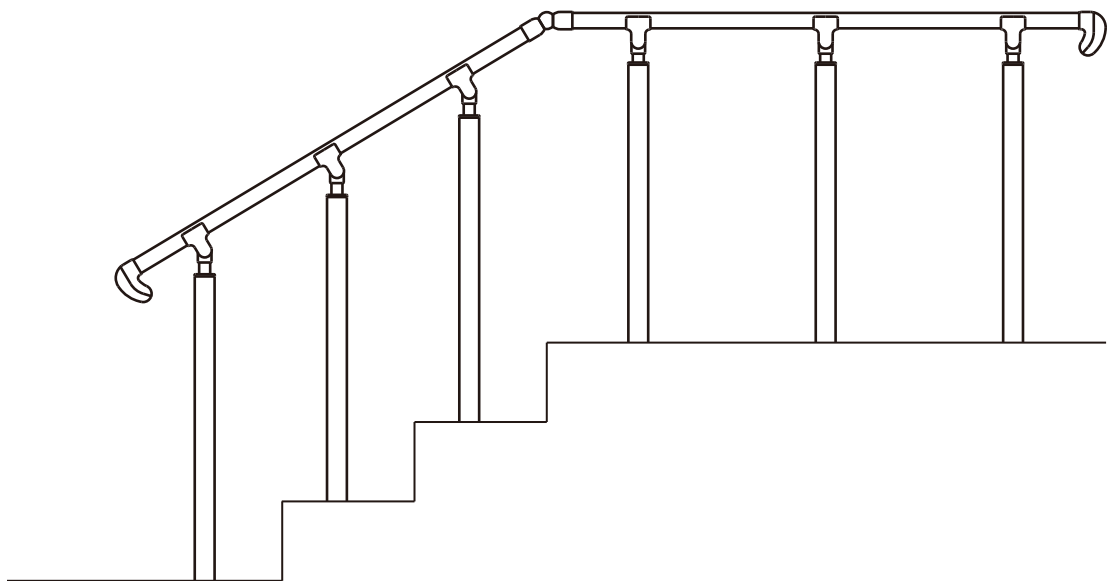
施工説明書 取扱説明書

屋外アプローチ手摺

施工業者様用

お施主様用

※この説明書には、使用上のご注意等が記載されています。
必ず説明書をお施主様にもお渡しください。



工務店様へ 本説明書は、施工後必ずお施主様にお渡しください。

この説明書には、施工上重要な項目が記載されています。
施工の前によく読み、手順通りに正しく施工してください。



注意

施工説明書本文に出てくる注意事項の部分は、施工前に注意深く読み、よく理解してください。

危険の定義とシンボルマーク

本施工説明書では【注意】を右のような定義で使用しています。



注意

取扱いを誤った場合、使用者が重傷を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合。

2016.2 現在

大建工業株式会社

DAIKENのホームページアドレス <http://www.daiken.jp/>

160201-IN-153TE-AP-STF

施工・取扱説明書

必ずお守りいただきたいこと

屋外用アプローチ手摺を長期間安全に使えるように施工するために、またトラブルのない確実な施工をしていただくために、以下のことを必ずお守りください。

⚠ 施工上のご注意

- この商品は、**一般住宅用の屋外用歩行補助手摺**です。（転倒・転落防止用ではありません。）重大事故につながるおそれがありますので、他の用途へのご使用はおやめください。
- 必ず下地に十分な強度を確保できる地面に取付けてください。（※1）（下地が不十分ですと取付けが不安定となり、けがや重大事故につながるおそれがあります。）
- ガス管・水道管・汚水管の位置を確認した上で施工してください。
- 商品に硬い物や重たい物をぶつけたり、落とさないでください。製品が傷ついたり破損するおそれがあります。（表面にキズを入れると補修できませんので、取扱いにご注意ください。）
- 手摺の取付け後には、ぐらつきやガタツキがなく確実に固定されていることを確認してください。

※1

ベースプレートタイプ施工		埋め込みタイプ施工
【木質下地の場合】	【コンクリート下地の場合】	
● 支柱を取付ける部分には、40mm以上の木質下地が必要となります。 40mm以上の下地が確保できない場合は取付けできませんのでご注意ください。	● 支柱を取付ける部分には100mm以上のコンクリート下地が必要となります。 100mm以上のコンクリート下地が確保できない場合は取付けできませんのでご注意ください。 ● スロープ部には取付けできませんのでご注意ください。 （スロープ部に取付ける場合は、埋め込みタイプをご使用ください。）	⚠ 注意 埋め込みタイプを施工する場合、必ず支柱の地面から50mm程度の位置に水抜き用の穴（φ5mm程度）を一箇所開けてください。

部材・部品表（製品寸法）⚠ 注意 開梱後に部材数の確認及び部材に損傷がないかご確認ください。施工中の部材の紛失・キズの発生については責任を負いかねますので施工前に必ずご確認ください。

※■には、色品番が入ります。（ZS：シルバー・ZB：ブロンズ）

選 択 部 材	
ベースプレートタイプ施工	埋め込みタイプ施工
ME3111-1 ■ ■ ■ 支柱（屋外用） 1本入り 同梱部材 六角棒スパナ5 1本 六角棒スパナ3 1本 施工説明書（本紙） 1枚 （ベース座取付用） タッピンねじ A6×40 4本（木質下地用） オールアンカー C8-50 4本（コンクリート下地用）	ME3112-1 ■ ■ ■ 支柱（屋外用） 1本入り 同梱部材 六角棒スパナ5 1本 六角棒スパナ3 1本 施工説明書（本紙） 1枚
高さ・角度調整タイプ	高さ・角度調整タイプ

共 通 部 材		ベースプレートタイプ施工	埋め込みタイプ施工
ME3101-4 ■ ■ ■ ME3101-2 ■ ■ ■ 手摺パイプ（屋外用） 各1本入り		ME3122-1 ■ ■ ■ 自在ジョイント（屋外用） 1個入り	
ME3121-1 ■ ■ ■ エンドブラケット（屋外用） 1個入り		ME3124-1 パイプ用アンカー 内径φ28用 2個入り	

必要工具（現場手配）

ベースプレートタイプ／埋め込みタイプ 共通必要工具			
チップソー切断機	水準器	ヤスリ	+ドライバー
〈手摺パイプ切断用〉 ステンレス切断用刃付			

その他、スケール・直角定規・スミ出し機などの計測機器があると便利です。

ベースプレートタイプ必要工具				
コンクリート下地用	コンクリートドリル	ダストポンプ	ハンマー	スパナ・モンキーレンチ
	 ドリル径 φ8.5 コンクリート用ドリル			 口径13

木質下地用	電動ドライバー	木加工用ドリル
		〈木下地リード穴加工〉 ドリル径 φ4.5

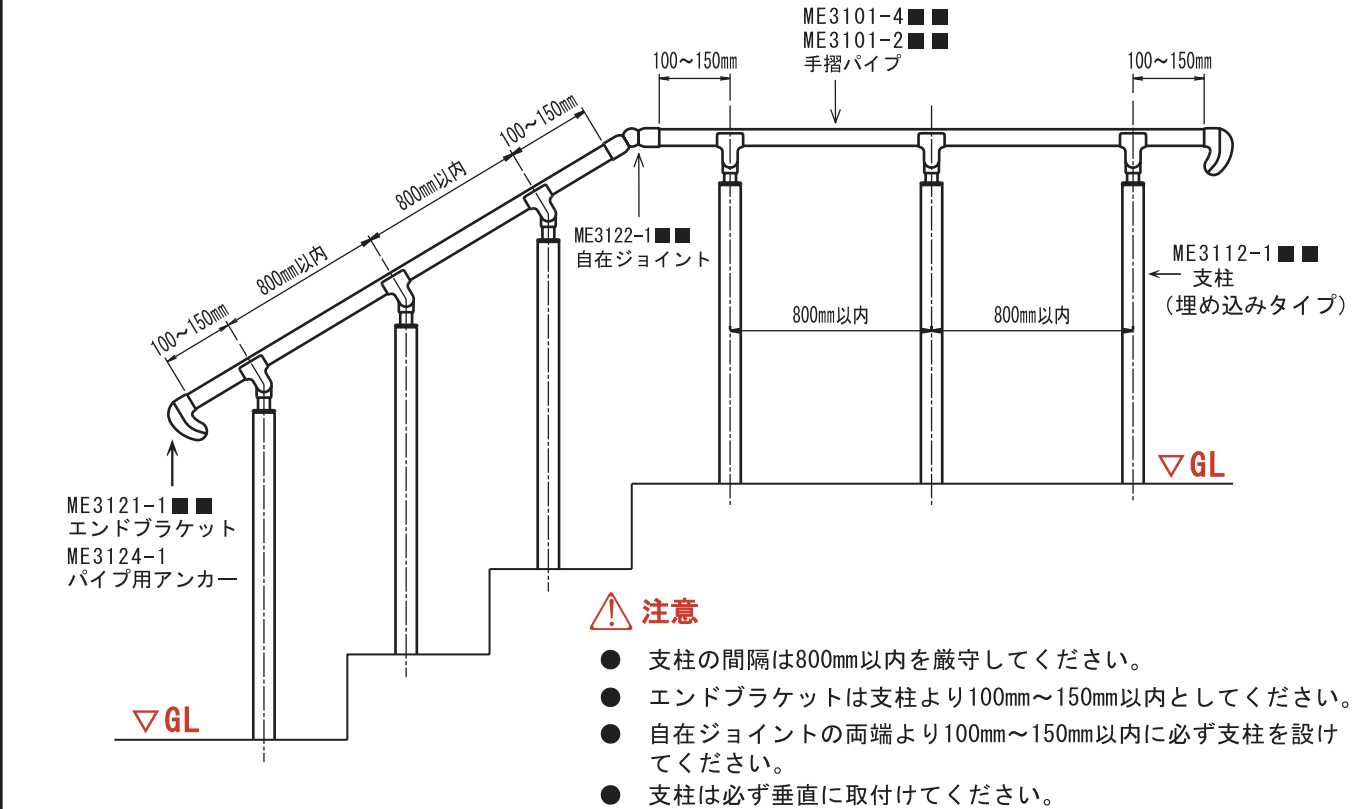
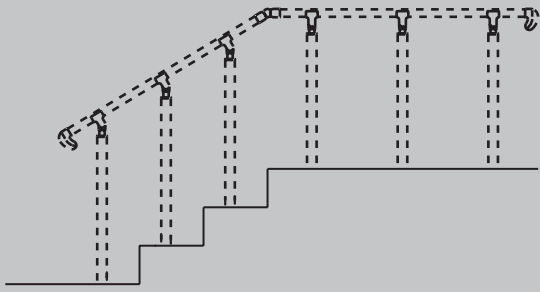
埋め込みタイプ必要工具		
コアドリル	電動ドライバー	金属加工用ドリル
		〈水抜き穴加工用〉 ドリル径 φ5.0

施工の手順【現場の状況を確認し固定方法をお選び下さい。】

手順 1
 ベースプレートタイプ施工
 埋め込みタイプ施工
 共通

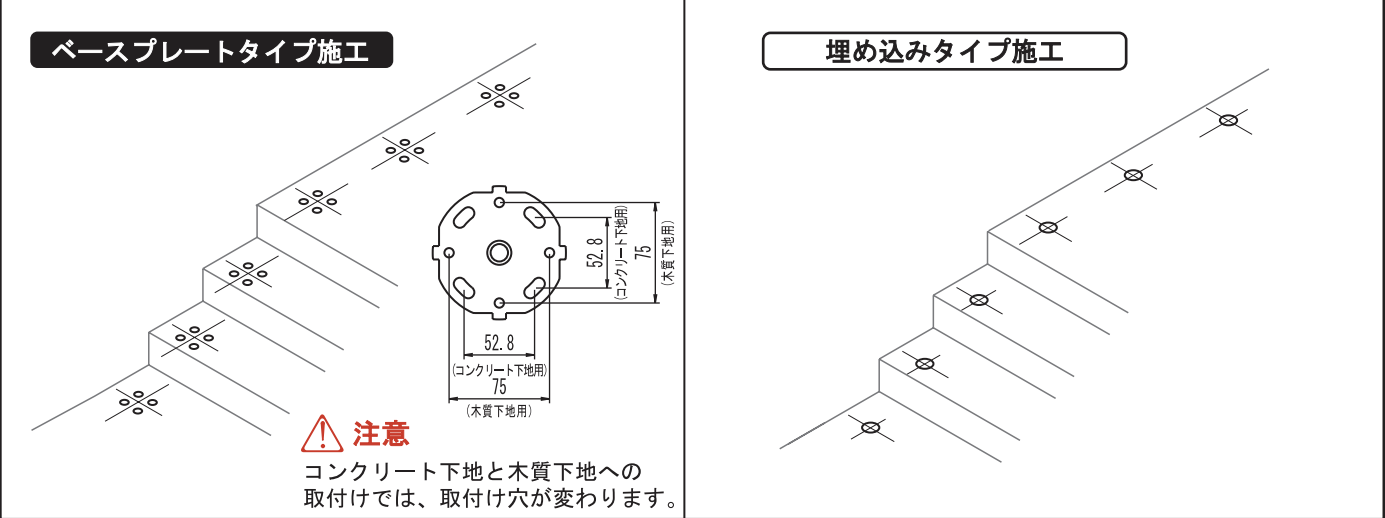
【配置決め】

手摺の取付け現場を測定・作図し、
 下図を参照の上、配置を決めます。



手順 2

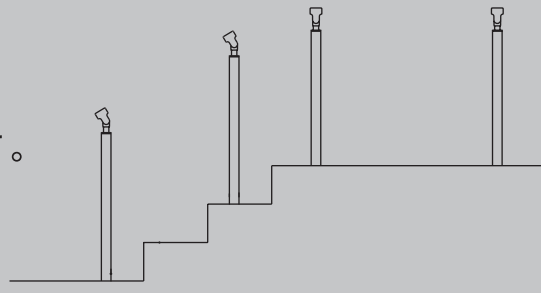
手順 1
 で決定した支柱取付け位置に、スミ入れを行います。



手順 3
 ベースプレートタイプ施工
 埋め込みタイプ施工
 共通

【両端支柱固定】

設置する手摺の両端の支柱を仮固定します。

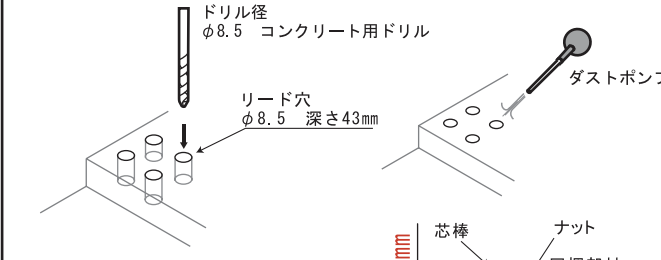


ベースプレートタイプ施工

【コンクリート下地の場合】

注意
 取付け面のコンクリート厚が100mm以上あることを確認してください。100mm未満の際は、十分な強度を得ることが出来ないおそれがあります。埋め込みタイプをお選びください。

- ① 心出しをした後、φ8.5mm、深さ43mmのオールアンカー用リード穴4ヶ所を開けます。ダストポンプなどを使用しリード穴内の切粉を除去してください。

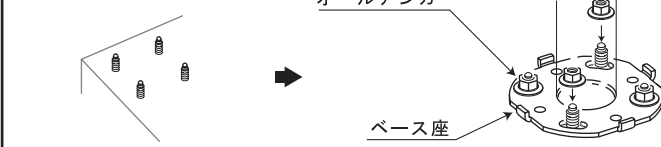


- ② 同梱のナットをオールアンカー上端にねじ込み、リード穴に軽く打ち込みます。

注意
 オールアンカー上端より6mmの位置までナットをねじ込みます。
 (ベース座厚 t=5)

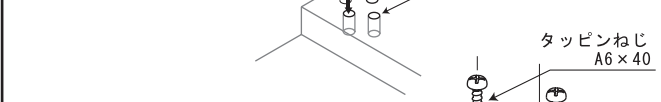
- ③ オールアンカーの芯棒が本体の頂部に接するまで確実にハンマーで打ち込んでください。

- ④ ナットを外し、ベース座のアンカー取付け穴にオールアンカーを通し、ナットをスパナ・モンキーレンチを使用して仮止めしてください。



【木質下地の場合】

- ① リード穴加工φ4.5mmを4ヶ所行います。



- ② 同梱のタッピンねじA6×40で仮固定します。

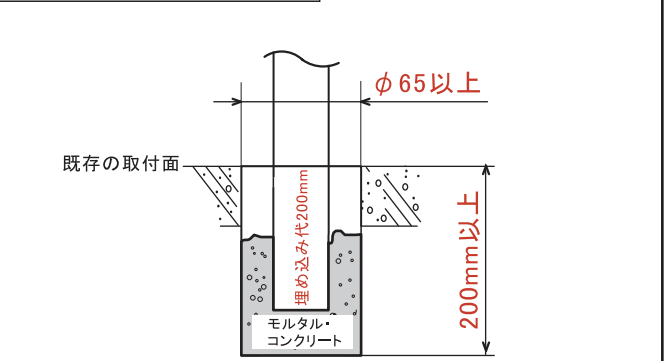
注意
 40mm以上の木質下地が確認できない場合は取付けできません。

埋め込みタイプ施工

【支柱埋込みタイプの場合】

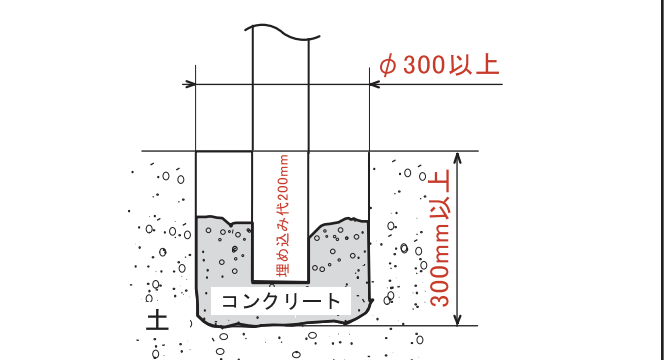
- ① 支柱の埋込み位置のセンターに印をつけます。
- ② コアドリルを使用し、センターに対し垂直に穴を開けます。支柱埋め込み代は200mmです。
- ③ 支柱の埋込み部を穴に入れ、モルタルやコンクリート等を半分程度流し込んでください。

取付け面がコンクリートの場合



最低φ65以上、深さ200mm以上の穴を開けます。

取付け面が土の場合



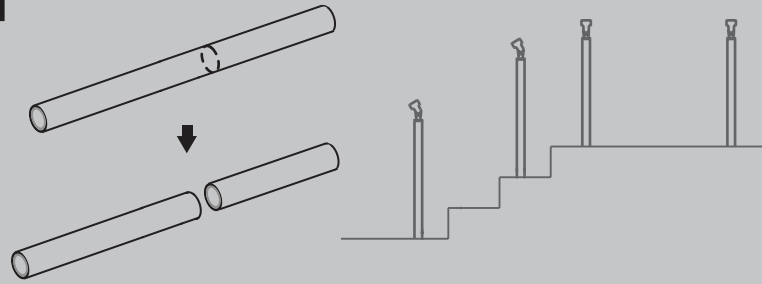
最低φ300以上、深さ300mm以上の穴を開けます。

注意
 砂地の場合は、確実な固定ができないおそれがありますので施工できません。

- ④ 支柱が垂直になっている事を確認し、コンクリートが固まるまで添え木等固定できるもので支えてください。

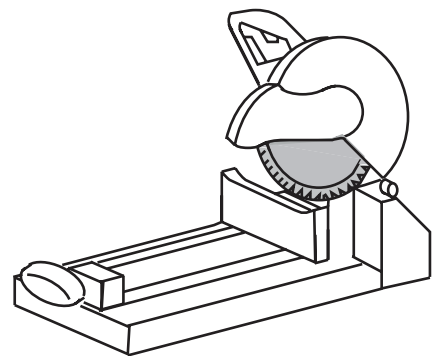
【手摺パイプの切断】

手摺パイプの切断を行います。



【手摺パイプ切断・内側外側バリ取り】

- ① 手摺パイプの切断には、ステンレス切断用刃付のメタルソー・チップソー切断機をご使用ください。

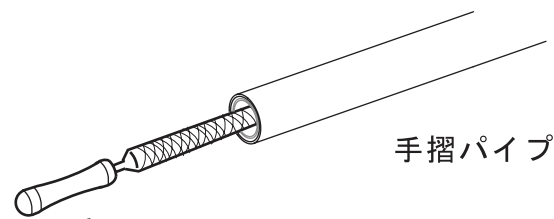


〈切断機〉
ステンレス切断用刃付

⚠ 注意

- 切断の際は、手摺パイプにキズを付けないように保護をして切断してください。（手摺パイプにキズがつくと補修できません。）
- 手摺パイプは、垂直に切断してください。斜めに切断されますと、ブラケットが接続できない事があります。

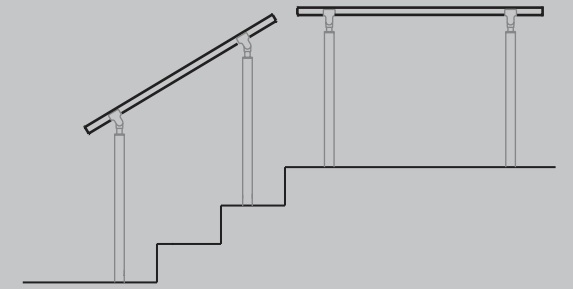
- ② 切断後は、手摺パイプの内側と外側のバリをヤスリできれいに取り除きます。



ヤスリ
（切断面にバリを残さないように）

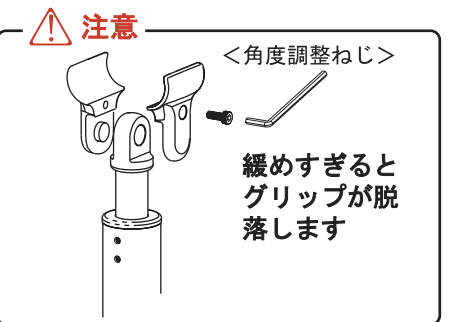
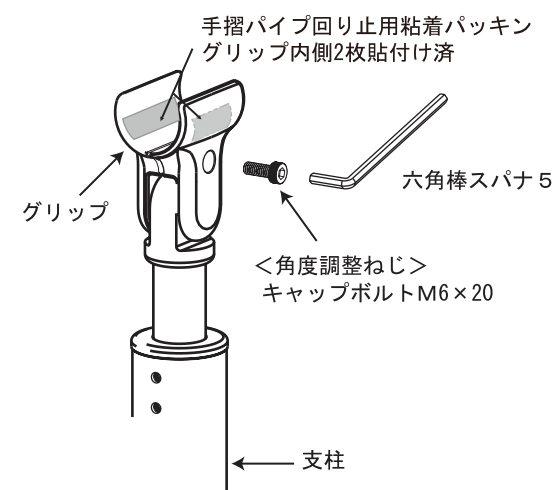
【手摺パイプ仮固定】

手順 4 で切断した手摺パイプを仮固定します。

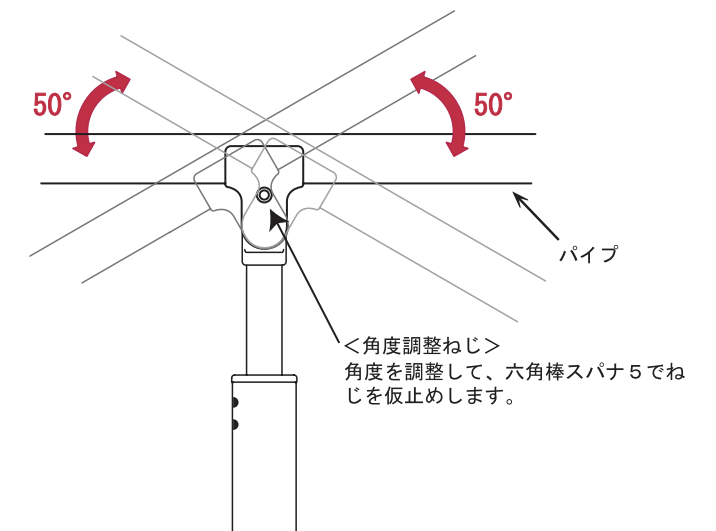


【手摺パイプ・支柱取付】

- ① 支柱グリップ部の角度調整ねじを同梱の六角棒スパナ 5 で緩めます。
- ② 手摺パイプをグリップにはさみ込みます。



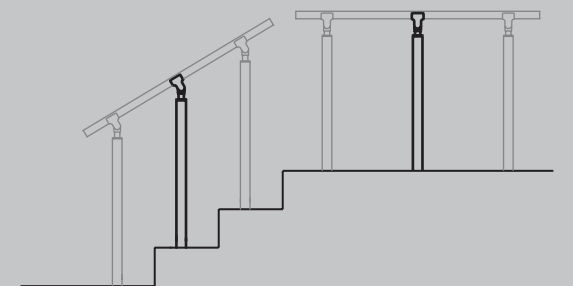
- ③ 取付け面の段差や勾配に合わせてグリップの角度を調整し角度調整ねじを締め込み仮止めします。



手順 6

【中間支柱固定】

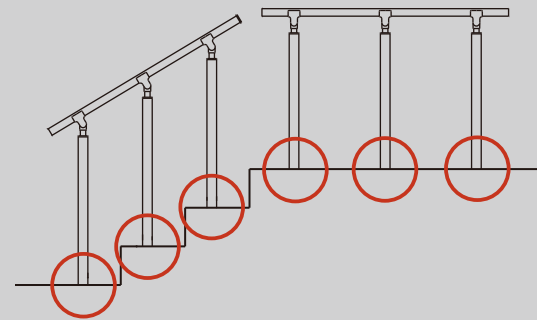
中間の支柱を固定します。
固定方法は、**手順 3** を参照ください。



手順 7

【支柱本固定】

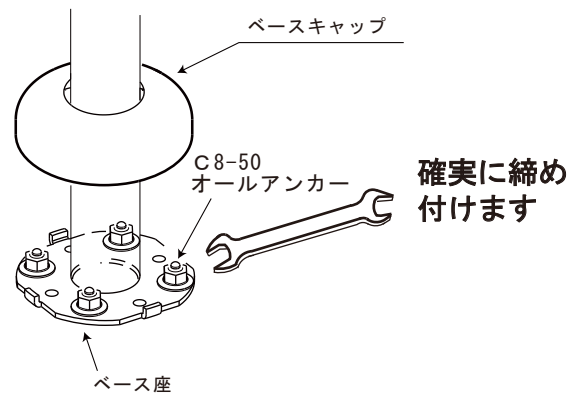
全ての支柱が取付け面に対し垂直に取付いている事を確認の上、本固定します。



ベースプレートタイプ施工

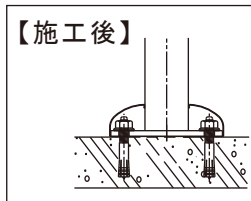
【コンクリート下地の場合】

- ① ナットをスパナ・モンキーレンチを使用して確実に締め付けます。
- ② ベースキャップをベース座に押し付けます。



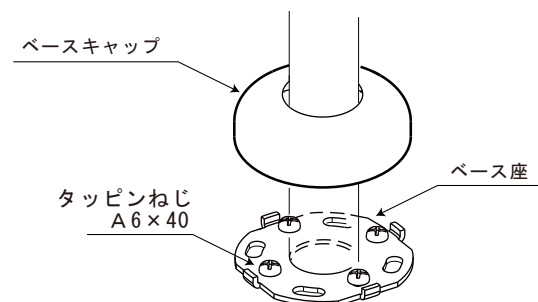
注意
取付けは同梱のオールアンカーC8-50にて確実に4ヶ所行ってください。

【施工後】



【木質下地の場合】

- ① タッピンねじA6×40を本固定します。
- ② ベースキャップをベース座に押し付けます。

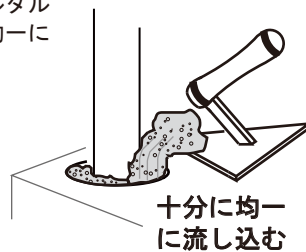


注意
取付けは同梱のタッピンねじA6×40にて確実に4ヶ所行ってください。

埋め込みタイプ施工

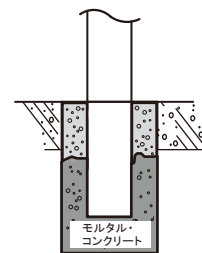
【支柱埋込みタイプの場合】

- ① 支柱の埋め込み部に、モルタルやコンクリートを十分に均一に流し込んでください。

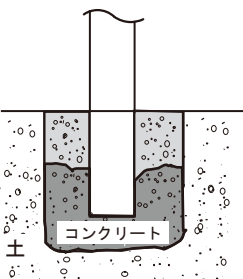


取付け面がコンクリートの場合

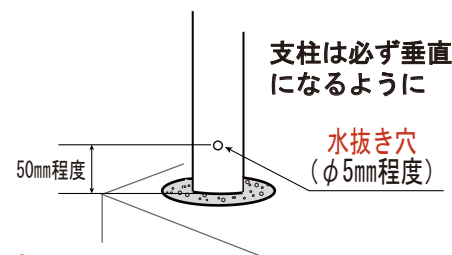
既存の取付面



取付け面が土の場合



- ② 埋込んだ支柱は、必ず垂直になるように固定してください。
- ③ 支柱の地面から50mm程度の位置に、水抜き用の穴を一箇所開けてください。



- 支柱は必ず垂直に埋め込んでください。垂直になっていないと、手摺パイプが正しく取付けできない事があります。
- 養生期間は、十分にとりください。
- 養生期間中は、手など触れないようにしてください。支柱が抜けたり、取付け面が破損するおそれがあります。
- 水抜き用の穴は必ず開けてください。寒冷地などでは、支柱内部にたまった水が凍りつき、思わぬ不具合を引き起こす可能性があります。

手順 8

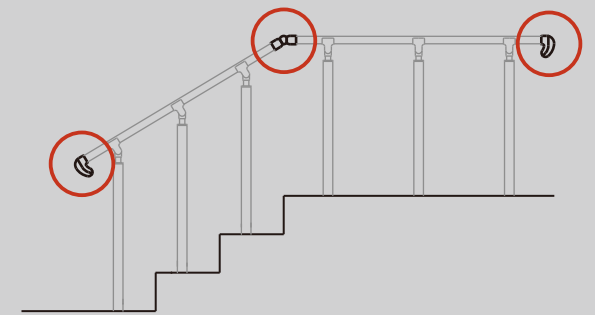
ベースプレートタイプ施工

埋め込みタイプ施工

共通

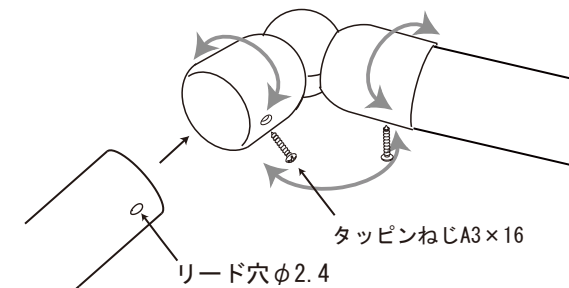
【金具取付け】

自在ジョイント・エンドブラケットを取付けます。



【自在ジョイント取付け】

- ① 手摺にリード穴加工（φ2.4）を行います
- ② 自在ジョイントに同梱のタッピンねじA3×16で固定します。



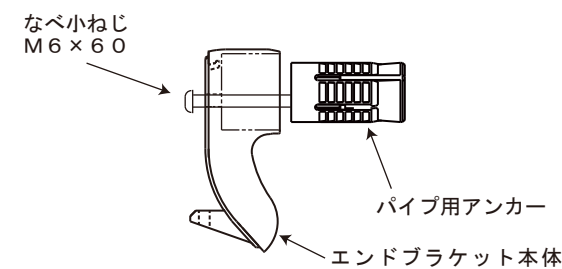
※ 角度調整は0°～90°まで対応します。



- 手摺パイプは奥まで差込んでください。
- カップ部を回転させ取付ねじ穴を下に向けてください。（雨水がたまらないように）
- 本製品の両端から100mm～150mm以内の位置に、必ず支柱を設けてください。手摺パイプが外れたり折れてしまうことで、けがや重大事故につながるおそれがあります。

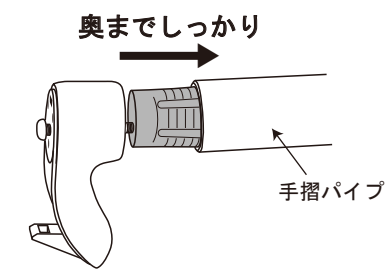
【エンドブラケット取付け】

- ① パイプ用アンカーをエンドブラケットに同梱のなべ小ねじM6×60で仮止めします。

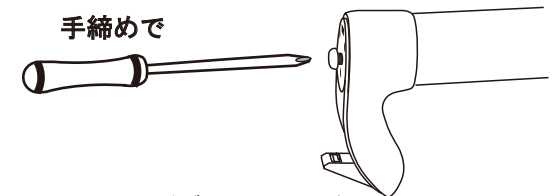


注意
パイプ用アンカーは、必ずエンドブラケットに仮止めしてください。単体でパイプに挿入されますと取り出せなくなる事があります。

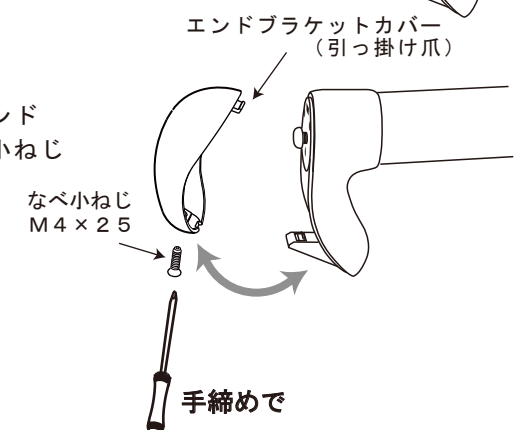
- ② セットされたアンカーをパイプの奥までしっかり差込みます。



- ③ ドライバーでなべ小ねじM6を手締めしてください。

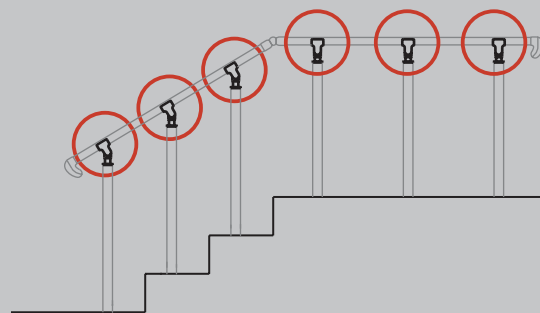
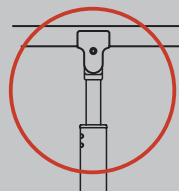


- ④ エンドブラケットカバーの上端の引っ掛け爪をエンドブラケット本体溝に引っ掛けてドライバーでなべ小ねじM4×25を手締めにて固定してください。



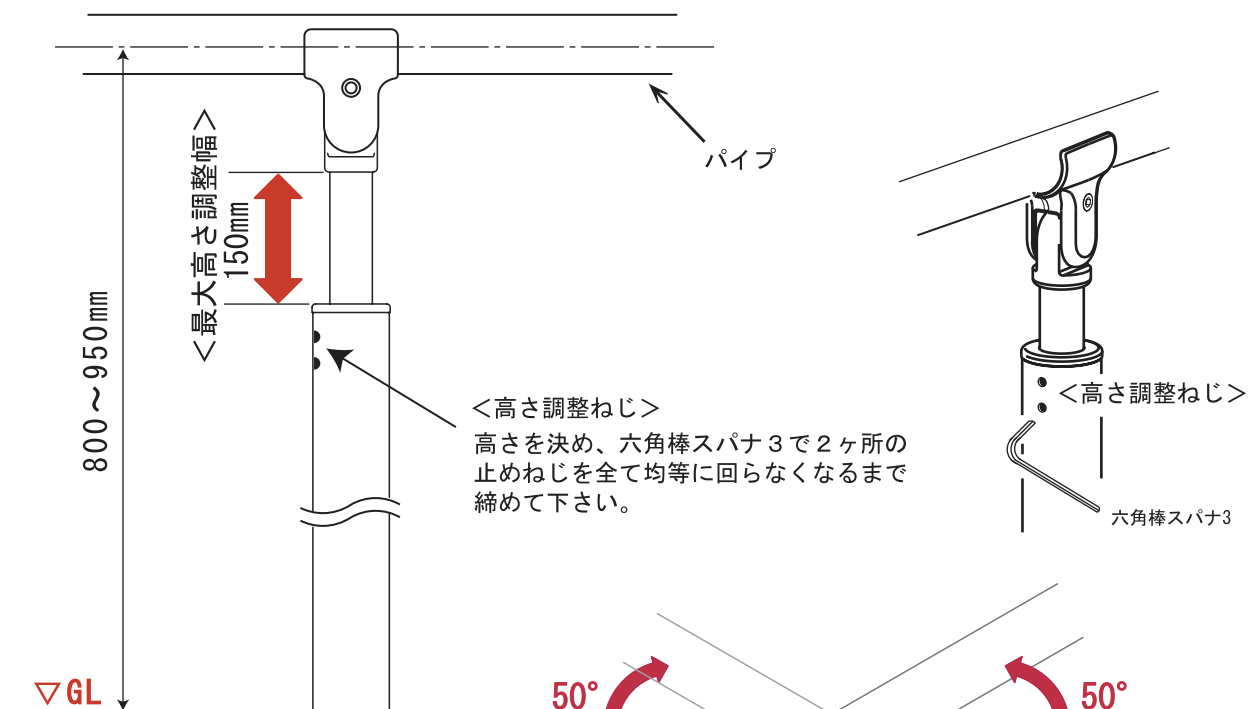
【高さ調整】

支柱の高さ調整範囲内800^{ミリ}～950^{ミリ}
(G Lから手摺の芯)で調整し角度
も合わせ調整します。



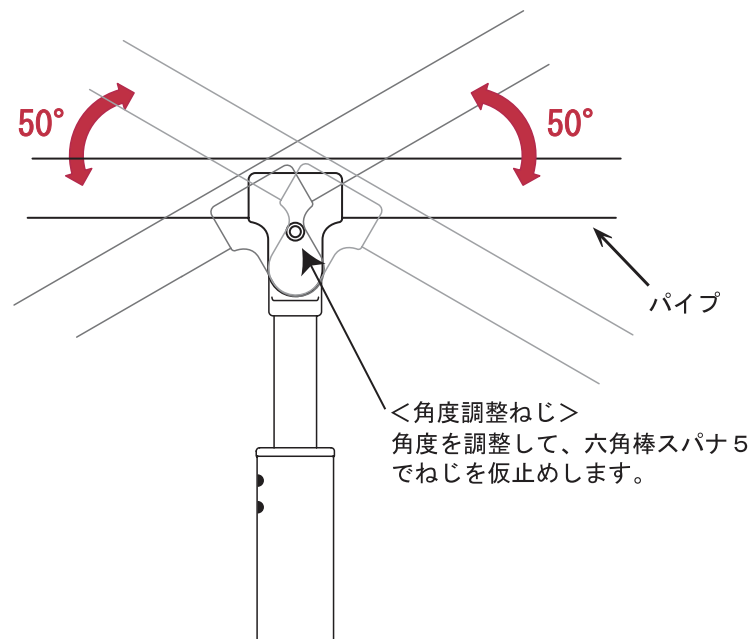
【支柱高さ調整】

- ① 可動範囲内で高さ調整をし同梱部材の六角棒スパナ3で高さ調整ねじを2ヶ所、締付けます。



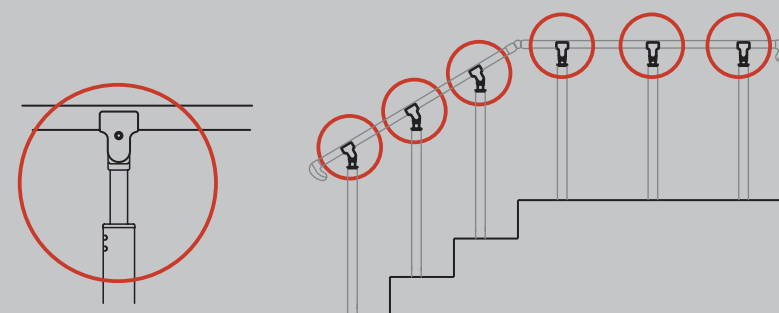
【支柱角度調整】

- ① 段差や勾配に合わせてグリップの角度
を調整し角度調整ねじを締め込みます。

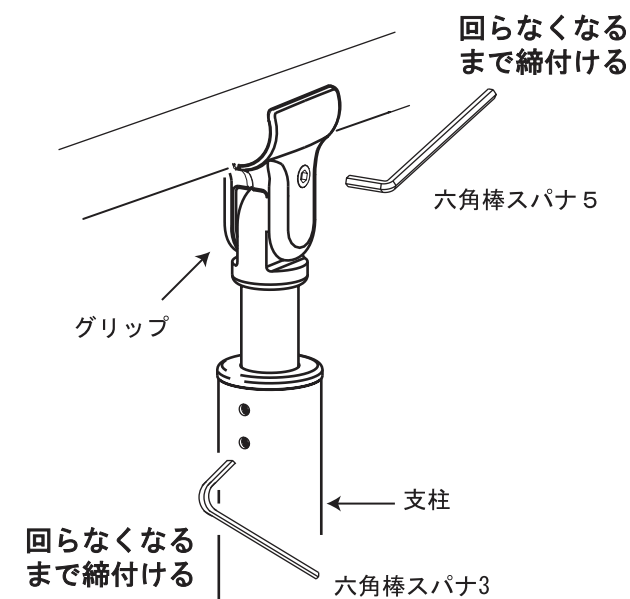


【本固定】

各部を本固定します。



- ① グリップを本固定して下さい。
② 最後に各ねじを増し締めしてください。



お客様へ

末永くご使用いただくため、下記の事項にご留意くださいますようお願い致します。

- この施工・取扱説明書は、大切に保管してください。
- ぶら下がったり、上に乗ったり、強く押し引きするなどしないでください。
転倒や転落のおそれがあります。故意に強い衝撃を与えた場合、手摺が床面から引き抜けるおそれがあり危険です。
- 火に近づけるなど高温を直接あてないでください。変色・変形・破損の原因になります。
- 手摺パイプは、樹脂コーティングにより通年を通し温度変化が少なく手になじみやすい仕様となっておりますが積雪寒冷地や炎天下的环境下では、この限りではありません。
- 万が一、製品にガタツキが出た場合は、直ちに使用を止め、取付業者または販売店にご連絡ください。重大事故につながる可能性があります。

お手入れの方法

- 通常のお手入れは、柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどい時は、中性洗剤をしみ込ませた布で拭き、その後、水拭きし乾いた布で水分は、十分に拭きとってください。
- シンナー・ベンジン・みがき粉・たわし等を使ってのお手入れは、色あせ・キズなどの原因になりますのでおやめください。酸性・アルカリ性洗剤も使用しないでください。誤って付着した場合には、すぐに水拭きにて十分に拭きとってください。最後に乾いた布で水分は完全に拭きとってください。

※商品改良のため仕様を予告なしに変更することがあります。